

リー ジチマンタル

2022, 12, 06
羽地幼・小学校
NO. 20

【(火)(木)は徒歩登校奨励日】

「これぐらいは歩いて」
「学校に歩いて行くのは当たり前だよ」
とお子さんに話してもらえませんか。



時間走大会について

従来行っていた「持久走大会」を「時間走大会」に変更します。

理由① 学習指導要領 体育編との関連

○「低学年では『一定の速さのかけ足2〜3分』（中学年は3〜4分）、高学年では『無理のない速さで5〜6分程度の持久走をする』とあります。従来の競争型の持久走大会は、小学校体育の学習内容にはなく、「全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導等の在り方について改善を図る。その際、特に運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導等の在り方について配慮する。」という学習指導要領に照らすと、その方法・内容について再考しないといけないと考えます。



理由② 生活スタイルの変化等による体力の低下

○「体育の授業以外で運動を全くしない児童の割合は、沖縄県6.5%（全国4.2%）」（令和元年度資料）で、増加傾向にあることが文科省からデータが示されております（実感としてはもっと高い?）。本校においても運動する児童としない児童の二極化が見られ、運動習慣のない児童が競争を伴う長距離走をするに学校としても不安があります。
○平成31年度と令和元年度の全国的な体力テスト比較で、体力の低下が見られます。コロナ禍による体力低下が、懸念材料としてあります。
○大会（16日）まで練習期間が短く、児童の体力を十分に高め、競走を伴う長距離走が実施できる状況にもっていけない現状があります。

理由③ 長距離の苦手な児童、意欲的でない児童への配慮

○これまでに、苦手でも最後まで走りきる姿や仲間たちが心の底から応援する姿に感動し、涙があふれることもありました。しかし、順位の遅い児童が「頑張れ〜」の声援を受け、やっとゴールしたときの心と体の状態にも配慮することも必要だと考えます。

Q&A



Q1:自分の立てた目標に向かって走るとは、従来の持久走大会でも一緒じゃないか。トリムの部を充実するなど、工夫すれば変える必要はないのでは。

A1:体育の学習では、どの競技においても自分なりに目標を持って、一生懸命取り組むことは大切だと考えます。しかし、従来型の持久走大会では、順位が一目瞭然ですので、児童の発達段階から、無理をして自分のペースではなく、競争になってしまいがちです。今回の時間走大会は、スタートの位置を2カ所設け、一見して誰が多くの距離を走っているのか、わかりづらくなっています。他者との順位を意識せず、自分の目標に向かって取り組むことになるよう工夫しています。

Q2:子ども達がやる気をなくしてしまうのではないかと。真剣に走らず、手を抜くことにならないか。

A2:他人との競争ではなく、自分との戦いであることを各学級で指導します。ご家庭でも、お話しいただくと助かります。

Q3:ルールがわかりづらくないか。応援がしづらくないか。

A3:児童に時間走の方法等を説明しています。スタートの位置やポイント制など、児童から聞いて下さい。

Q4:順位が分かりづらい。はっきりさせてほしい。

A4:過度な競争にならないように、順位を分かりづらくすることがそもそもの目的です。ご理解下さい。

Q5:3月に行われている『名護市小学生交流駅伝大会』の選手決めはどうするのか。

A5:時間走で多くのポイントを獲得した児童がその候補になると考えています。児童に周知します。

～新しい試みで、不安がありますが、ご理解いただきますようお願いいたします～